

## ○ グリセチンV錠&lt;製造販売中止&gt; [内]

【重要度】 【一般製剤名】 グリセオフルビン (U) griseofulvin 【分類】 白癬病治療剤

【単位】 ○125mg/錠

【常用量】 250~500mg/日

【用法】 1~数回

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (3, 6, 10)

【保存期腎不全患者への投与方法】 減量の必要なし (2, 3, 10, 12)

【特徴】 In vivo では皮膚糸状菌症の原因菌以外には無効。比較的静菌的ではあるが、MIC は必ずしも低くない。消化管刺激を避け、吸収率を増加させるため、食事と共に、または食後に服用させる。再発防止のため、感染菌が完全に撲滅されるまで治療は止めてはならない。足指爪の場合は少なくとも6カ月。

【主な副作用・毒性】 TEN、剥脱性皮膚炎、SLE 症状、精神錯乱、末梢神経炎、過敏症、発疹、紅斑、蕁麻疹、顆粒球減少、白血球増多、消化器症状、肝障害、めまい、頭痛、不眠などの精神神経症状、蛋白尿、味覚異常など

【モニターすべき項目】 CBC、血清クレアチニン濃度、肝機能検査、尿検査

【吸収】 個人差が大きい (11)

【F】 25~70%、脂肪食と同時にまたは脂肪食後には吸収率が有意に上昇する (U) 50% (14)

【tmax】 4hr (U)

【代謝】 97~99%が肝代謝 (4) 主な代謝物は6-methyl-griseofulvin とそのグルクロン酸抱合体。(U)

【排泄】 尿中未変化体排泄率1%以下、約36%が未変化体のまま糞便中に排泄される (U) 1% (14,12) 【非腎 CL/総 CL】 100% (10)

【t1/2】 14hr (10,12,14) 約24hr (U) 10~20hr (6) 9.5~21hr (11) 【透析患者のt1/2】 20hr (10,12)

【蛋白結合率】 データなし (12)

【Vd】 1~2L/kg (6) 1.5L/kg (10, 14) 1.2~1.4L/kg (11) 1.6L/kg (12) 【分布】 皮膚・毛・爪のケラチン層に沈着し、投与数時間後には表皮角質層から検出される。体液、臓器にはわずかにしか分布しない (U)

【MW】 352.77

【透析性】 組織移行性が高く、体内からは効率的には除去できない (5)

【TDM のポイント】 有効治療域0.3~1.3 μg/mL (14) TDM の対象にならない

【備考】 動物で精子及び卵子に影響を与えるという報告があるため服用中、及び服用中止後、婦人では1ヶ月間、男性では6ヶ月間避妊すること。本剤は経口避妊薬の作用を弱めることもある。ヒトでの催奇性の報告もある。(販売中止2008/12:原薬製造中止)経過措置2010/3

【更新日】 20100619

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。